

# ソーシャルワークの理論と方法 I

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 児崎 友美

■使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）  
「最新・社会福祉士養成講座第12巻 ソーシャルワークの理論と方法」中央法規出版

◆参考テキスト

福祉臨床シリーズ編集委員会編「新・社会福祉士シリーズ8 ソーシャルワークの理論と方法」弘文堂

## 講義概要・一般目標

本講座では、「相談援助の基盤と専門職」で学んだ内容について基礎的な項目を再度復習すると共に、実践に近づくことを目的に事例を中心として授業を展開していく。

そこで、本講座受講生は、能動的に事例に取り組み、即ち自らがソーシャルワーカーの立場として課題に取り組むことを期待します。

課題の提示の方法としては、基礎的な項目に対する知識の再点検と事例を下にどのような援助計画や実践を提示していくかということを問う内容を提示していきます。

さらに、制度・政策的な流れについても理解を深め、ソーシャルワーク展開の分野についての特徴についても合わせて理解を深めて下さい。

## 到達目標

- 1) 本講座では、相談援助の基礎的なことを再度確認することで、ソーシャルワーカーにとって「相談援助」の展開過程を説明できる
- 2) 他の専門職が行う「相談」と何がどう違うのかを理解し、その特徴についても合わせて説明できる

## 実務経験のある教員による教育

科目担当（児崎）は、福祉現場である特別養護老人ホームに3年、地域包括支援センターに13年という期間、社会福祉士として実務経験を担ってきた。このような実務経験に基づき、実践に必要な相談援助の理論と方法についての知識を修得することを目的に添削指導を行う。

## 評価方法

科目単位認定試験により評価。

# 学習指導

## 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークとは

### この章ポイント

本章では、「ソーシャルワークで用いられる理論と概要」について学ぶことを目的としている。ソーシャルワーカーが強みとする「人」「環境」「人と環境の交互作用」の3者に視点を置く根拠や、ソーシャルワーカーとしての考え、語り、行動する際のよりどころとなることを理解し、実践に活かせるようにする。

## 第2章 ソーシャルワークの過程 —ケース発見とエンゲージメント（インテーク）—

### この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの展開、特に最初の段階について理解する。その際、困難な状況にある人が援助を受けることを決断するプロセスとソーシャルワーカーに出会うまでの経路について学ぶ。次に、ソーシャルワーカーがクライアントと出会って初めに行うエンゲージメント（インテーク）について学ぶ。援助が必要な人の中には、様々な事情で援助を求めない人がいるため、そのような人たちへのかかわり方についても学ぶ。

## 第3章 ソーシャルワークの過程 —アセスメント—

### この章ポイント

本章では、アセスメントの意義と方法、留意点を理解することを目的としている。このアセスメントにおいては、第1章で学んだ理論とモデルがアセスメントを支えていること、そして実際の技法に活かされていることを意識して欲しい。

## 第4章 ソーシャルワークの過程 —プランニング—

### この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの原理と理論・モデルに基づいて、目的、目標、計画内容を設定する方法を学ぶことが目的である。プランニングは、連携や協働の要ともなるものなので留意点についても注意して欲しい。

## 第5章 ソーシャルワークの過程 —支援の実施とモニタリング—

### この章ポイント

本章では、計画を実施するとともに、計画が適切に実施されているか、それによって目標達成に向かって進んでいるかなど、プロセスを確認するためのモニタリングの手続きと留意点について学ぶ。併せて、効果測定の意味と意義についても学ぶ。

## 第6章 ソーシャルワークの過程 —支援の終結と結果評価、アフターケア—

### この章ポイント

本章では、支援の終結を迎えるにあたり行うことを学ぶ。また、支援の全体をふりかえって適切な実践ができたか、実践の効果があったかなど、評価を行う重要性についても学ぶ。したがって、支援の終結、結果評価、アフターケアの考え方や方法を学ぶことが目的である。

## 第7章 相談援助のためのアウトリーチの技術

### この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク援助過程における、アウトリーチについて理解を深めることを目的とする。アウトリーチ手法は今後ますます必要とされることが予測され、特に地域包括支援センターの社会福祉士にとって重要な手法でもある。